

酒の味が…



1998年 甲斐 晶

大学に入学して2週間が過ぎようとした頃のこと。授業の空き時間に学内を見学していたところ、体育館内を見るとレスリング部が練習しているのが目にとまった。初めて目にする競技に引き込まれるように練習を覗いたのがレスリングとの出会いであった。大学入学までの数年間、運動らしい運動を全くしていなかった私にとって、練習は過酷を極めた。身軽に動く重量級の先輩を見て、大きな体をして何故動けるのかと不思議に思うこともあった。

デビューは、入部してまだ数週間位にあった関関戦。入部して僅か数週間の素人が試合をするなんてと現役諸君は思うかもしれないが、部員の少なかった当時はよくあることだった。対戦相手は関学主将の向井さん（名前が違うかもしれませんが）だった。試合開始35秒でテクニカルフォール負けを喫し、汗をかく間もなく終わった。あまりの実力差に悔しささえも沸いてこなかった。それから半年後の秋のリーグ戦での関学との対戦で、相手はまたもや向井さんだった。嫌な記憶が蘇ったが、気持ちを切り替え試合に臨んだ。そんな心配とは裏腹に、先制ポイントを挙げ、序盤優勢に試合を進めたのは私だった。さぞ、相手は驚いたと思うが、おそらく一番驚いていたのは私自身だった。しかし、すぐに形勢を逆転されテクニカルフォールで負けた。悔しくてたまらなかった。コーナーに戻ると、安田コーチ(現監督)が私の方を向いて右手親指を突き出し、ニコッと微笑んだ。半年の間で自分は強くなっていたんだと感じた瞬間であった。次の中京大戦ではリーグ戦で初勝利を挙げることができ、その日の晩に飲んだ酒は忘れることのできない味となった。

2年生の頃のことである。垂水神社で階段ダッシュをしていたときのこと。130kg級の同期が階段を駆け上がっていたところ、3歳くらいの男の子が階段から下りてきた。男の子は、迫り来る巨体を発見すると驚いて大声で泣き出した。一緒にいたお母さんが、「大きいお兄ちゃんが走ってきて怖かったねえ」と慰めていた横で、巨体が小さくなっていた。この同期が部を去ったのが一番つらかった。

時は流れ、男子選手4名、女子選手1名、マネージャー1名で迎えた1998年。この年の喫緊の課題は新入部員を一人でも多く獲得するという、ここ数年続いた部員不足の解消を図ることであった。現役部員よりOBの方がマットに多くあがっていることも多々あった。スポーツ推薦のなかった当時、部員を確保するのは本当に難しかった。ましてやレスリング経験者が入部してくることも皆無に等しかった。しかし、経験者が二人勝手に入部してきた。哺乳綱偶蹄目ヤギ科の浅井と体脂肪率30%の比与森である。でも、ここで満足してはいけない。入部しても途中で消えていく者が多いのもレスリング部の伝統。数日が過ぎたころ、3年生の立澤が、言葉巧みに一人の純朴なソフトボール好きの新入生を連れてきた。後に主将となる関だった。そのほかにも四人ほど入部し、近年稀にみる素晴らしい出だしとなった。

そんな部の盛り上がりとは反対に、春のリーグ戦が終わって暫くした頃から、私は学業との両立ができなくなり、また、進路が決まらないこともあって、次第に練習に顔を出さなくなった。部員には大変迷惑をかけたと思う。特に3年生だった吉井と立澤が中心となって、部を引

っ張ってくれたことには本当に感謝している。

そして迎えた秋のリーグ戦。最終戦の対戦相手は京都産業大学だった。メンバー交換の結果、私は最後に戦うことになった。おそらく最終戦まで勝負はもつれ込むだろうと思うと、顔が引きつるくらいの緊張感におそわれた一方、これが現役最後の試合と思うと、感慨深いものを感じずにはいられなかった。そんな私の心配とは裏腹に、後輩や柔道部からの助っ人が奮闘し、私の出番を待たずに勝ちを決めてしまった。その瞬間張り詰めていた気持ちが少し緩んだのかもしれない。試合開始直後に不用意に伸ばした腕をとられ巻き投げを食らった。その後態勢を整えなおすもポイント差で負けてしまった。その日の打ち上げで飲んだ酒は、今まで飲んだ中で一番まずく苦い味だった。試合で負けたこと、学業との両立ができず練習に殆ど顔を出せなかったこと、主将らしいことを後輩にしてやれなかったこと等、いろんなことが混ざり合っていた。

自他共に認める不甲斐ない主将であったが、レスリング部での活動を通し、多くのことを経験させてもらい、勉強させてもらった。

ここ数年の関大レスリング部の活躍を聞き大変頼もしく思います。これも部員の努力はもちろんのこと、監督・コーチ・OBの方々のご尽力があつてのことだと思います。遠方に住んでいるので、なかなか応援に行くことはできませんが、関大レスリング部の益々のご活躍を期待します。

「1998年の陣容」

顧問 伴 義孝
監督 横山博行
コーチ 安田忠典
主 将 甲斐 晶
副 将 岸本裕子
主 務 飯田友子
学 連 飯田友子
4年生 飯田友子・甲斐 晶・岸本裕子

3年生 立澤 豪・吉井章浩
2年生 田和良介
1年生 浅井隆宏・北山秀人・関 浩一
西岡伸介・比与森正志



府民体育大会にて

「1998年の試合結果」

大阪府民体育大会

54キロ級 第2位 立澤 豪
58キロ級 優 勝 吉井章浩
85キロ級 第2位 谷山亮介 (OB)

西日本春季リーグ戦

2部7位 (2勝3敗)

岡山県国体最終予選

G58キロ級 優 勝 吉井章浩
F58キロ級 優 勝 吉井章浩

全日本女子レスリングオープントーナメント

56キロ級 ベスト8 岸本裕子

西日本秋季リーグ戦

2部5位 (3勝2敗)



くつろぐ4年生トリオ